

いじめ（不登校）問題への組織対応

■ 組織対応の基本的考え方

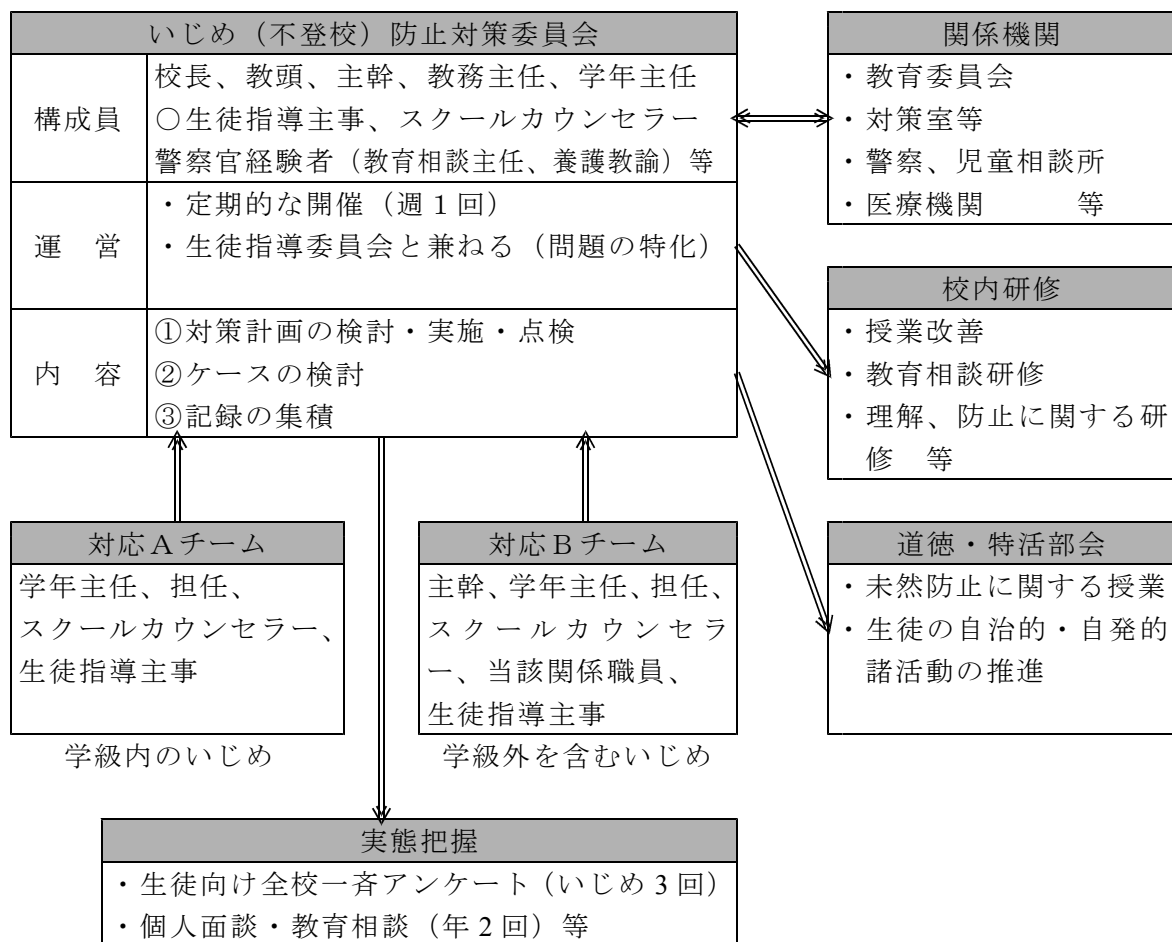
「いじめ・不登校は、どの学校にも、どの学級にも、どの子どもにも起こりうるとの前提のもとで、担任や一部の教職員だけで問題を抱え込まないことが大原則です。

- 1 チームで対応することを原則とする。
- 2 組織として同一歩調で取り組む。
- 3 早期発見、早期対応を（組織で）図る。
- 4 起きていることが見えるようにして、組織でバップアップ。
- 5 安易に解決したと判断しない、組織としての対応。

※「実態把握」⇒「役割分担と対応」⇒「経過観察」⇒「検証」

- 6 時系列に沿って、経過の記録を残す。

■ いじめ（不登校）防止対策委員会組織関連図



■ いじめの発見、報告体制等のシステム化

- (1) 報告体制
- (2) 実態調査（定期的なアンケート、教育相談の実施）
- (3) 指導記録の共有化（いじめ対応ミーティングメモ用紙・詳細経過用紙）

いじめ発見のポイント

<学校での発見ポイント>

【登下校時】

- ★理由もなく、一人で朝早く登校する。
- ★一緒に登下校する友人が違ってくる。
- ★教職員と視線を合わさないようになる。
- ★元気がなく浮かぬ顔をする。挨拶をしなくなる。
- ★登校手段が変化する。(自転車通学から徒歩に変わる。)
- ★特に用事もない(と思われる)のに、教職員に近づいてくる。

【朝の学級活動】

- ★体調不良(頭痛, 腹痛, 吐き気等)を訴える。
- ★欠席・遅刻・早退の理由を明確に言わない。
- ★提出物を忘れてたり、期限に遅れたりする。
- ★担任等教職員が教室に入室後、遅れて入室する。
- ★表情が暗く、どことなく元気がない。

【授業中】

- ★発言すると、嘲笑されたり、はやし立てられたりする。
- ★授業道具等の忘れ物が目立つ。
- ★決められた座席と違う場所に座っている。
- ★周囲の状況に関らず、一人でじっとしている。
- ★教科書、ノート等に落書きが目立つ。
- ★他の児童生徒から発言を強要されたり、突然個人名が出されたりする。
- ★球技の際にパスされなかったり、パスが集中したりする。
- ★課題等を代わりにやらされる。
- ★特定の生徒の机との距離を離す。

【休憩時間・昼食時】

- ★一人でいることが多く、集団での行動を避けるようになる。
- ★給食・弁当等を一人で食べることが多い。
- ★お金や物品の受け渡しを行っていることがある。
- ★遊びと称して、友達とふざけあっているが表情が暗い。

【帰りの学級活動、放課後】

- ★持ち物がなくなったり、掲示した作品などにいたずらがある。
- ★班ノートや学級(ホームルーム)日誌に何も書かなくなる。
- ★みんなが帰宅する前に一人急いで帰宅したり、みんなが帰るまで帰宅したがない。
- ★靴や傘等が隠される。
- ★教職員の近くから離れようとしなない。

<家庭での発見ポイント>

【態度やしぐさ】

- ★家族との対話を避けるようになる。
- ★受信した電子メールをこそこそ見たり、電話が鳴るとおびえたりする様子が見られる。
- ★部屋に閉じこもり、考え事をしたり、家族とも食事をしたがらなかったりする。
- ★感情の起伏が激しくなり、動物や物等に八つ当たりする。
- ★帰りが遅くなったり、理由を言わず外出をしたりする。
- ★用事もないのに、朝早く家を出る。
- ★朝、なかなか起きてこない。

【服装, 身体・体調】

- ★衣服に汚れや破れが見られたり、手足や顔等にすり傷や打撲のあとがあったりする。
- ★自分のものではない衣服（制服）を着ている。
- ★学校に行きたくないと言い出したり、通学時間になると腹痛等身体の具合が悪くなった
りする。
- ★食欲不振、不眠を訴える。

【学習】

- ★学習時間が減ったり、宿題や課題をしなくなったりする。
- ★成績が低下する。

【持ち物, 金品】

- ★家庭から品物、お金がなくなる。あるいは、用途のはっきりしないお金を欲しが
る。
- ★持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きがある。

【交友関係】

- ★口数が少なくなり、学校や友達のことを話さなくなる。
- ★無言等の不審な電話、発信者の特定できない電子メールがあったりする。
- ★急に友達が変わる